

中学生時の運動部加入率が飲料水選択に与える影響調査

東京都市大学 学生会員 ○中村 尚輝
東京都市大学 正会員 長岡 裕

1. はじめに

内閣府世論調査¹⁾によると、全国のおよそ7割の人々が水道水を直接飲用していないということが示されている。このことから水道水を蛇口から直接飲まない、いわゆる水道水離れが懸念されている。水道水離れは、地球温暖化に影響を与える。水道水以外の飲用（ペットボトル、缶）を利用すると、それらを運搬やリサイクルする際に、地球温暖化の原因とされている温室効果ガスの二酸化炭素等を発生させ、地球温暖化が進行してしまう。それにより、水循環に影響を及ぼし、渇水や洪水のリスク増大が危惧されている²⁾。

これらの問題の対策として、水道水の不快臭を取り除いて水をおいしくする高度処理の導入を進められている。しかし高度処理導入率100%である大阪府で行われた調査では、高度処理の導入下においても水道水の安全性や水道システムの清潔さに対する健康不安が非常に高いことが示された³⁾。このことから、人の潜在意識が水道水の評価に及ぼす影響を把握した上でソフト面の対策を強化することが必要であると示唆された。

また水道水直接飲用割合の低下と同様に文部科学省の調査⁴⁾より部活加入率は年々減少傾向であることが報告されている。それに対し日本中学校体育連盟の調べ⁵⁾によると、地域ごとの中学生運動部加入率に大きく差が出ており、東北地方の中学生運動部加入率が比較的高いことが示されている。また水道水直接飲用割合においても、湯浅ら⁶⁾の研究のアンケート結果により東北地方の水道水直接飲用率が非常に高いことが示された。これらの結果より同様な地域特性が見られる。

よって本研究では中学生運動部加入率と水道水直接飲用割合の地域特性から因果関係を考え、運動部加入率に焦点を当て、調査を通し現在の飲料水の選択と中学生時運動部加入率の因果関係を解明することを目的とする。

2. 調査概要

中学生時の運動部加入率が飲料水選択に与える影響を調査するにあたり、運動部加入率と水道水直接飲用割合の相関図と相関係数からの調査、インターネットを使用したアンケート調査の2点から調査を行い、因果関係の解明を目的とする。

3. 調査結果

3.1 地域別運動部加入率と水道水直接飲用割合

運動部加入率と水道水直接飲用割合の因果関係を調査するにあたって下記に中学生の運動部加入率と直接飲用率の相関図を示す。図1は湯浅らの研究⁶⁾の子を持つ母1,030名の水道水直接飲用割合のデータを使用し、図2ではネットリサーチティムスドライブ「水道水に関するアンケート」の男女年齢を問わない10,366名の水道水直接飲用割合のデータ⁷⁾を使用した。

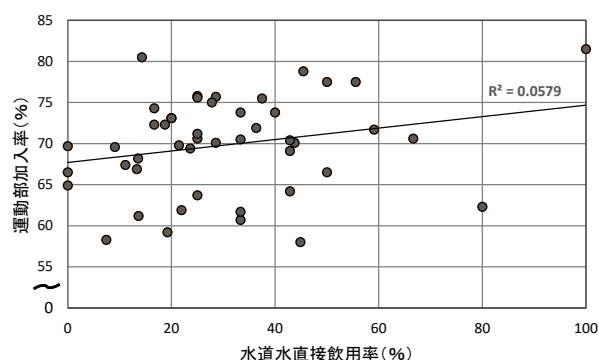


図1 都道府県別運動部加入率－水道水直接飲用割合相関図

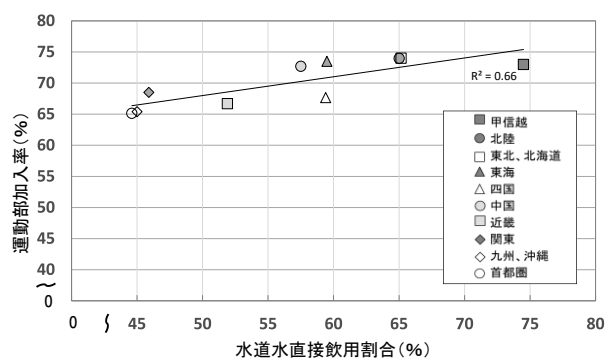


図2 地域別運動部加入率－水道水直接飲用割合相関図

キーワード 水道水、運動部加入率、飲用水選択

連絡先 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 TEL 03-5707-0104 E-mail g1418068@tcu.ac.jp

図1、図2共に右上がりの正の相関図となった。相関係数は、図1では0.345となり弱い相関が見られた。また図2では0.812となり強い相関が見られた。

3.2 アンケート調査結果

3.2.1 アンケート方法

20代大学生男女140名（男子82名、女子58名）を無作為に抽出し2017年11月29、30日、2018年1月17～19日にインターネットアンケートを行った。調査票作成にはGoogle Formsを使用した。表1にアンケート調査のアンケート表の概要を示す。

表1 調査アンケート概要

中学生時の運動部加入別飲用水選択アンケート	
・性別	(男性, 女性)
・中学生時代運動部に加入していましたか	回答(はい, いいえ)
・中学生時代水道水を直接飲用していましたか	回答(はい, いいえ)
・現在水道水を直接飲用していますか	回答(はい, いいえ)

3.2.2 アンケート結果

図3、図4に中学生時の運動部加入別飲用水選択アンケート調査結果を示す。

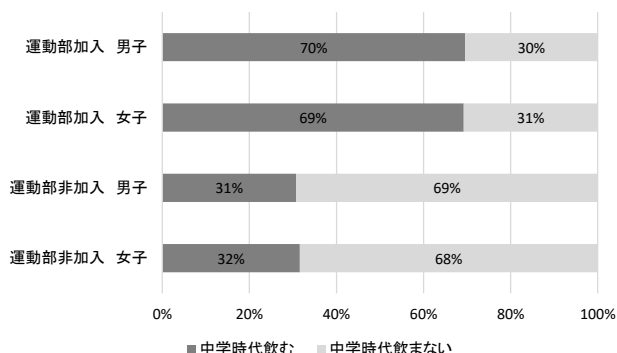


図3 中学時の水道水直接飲用率

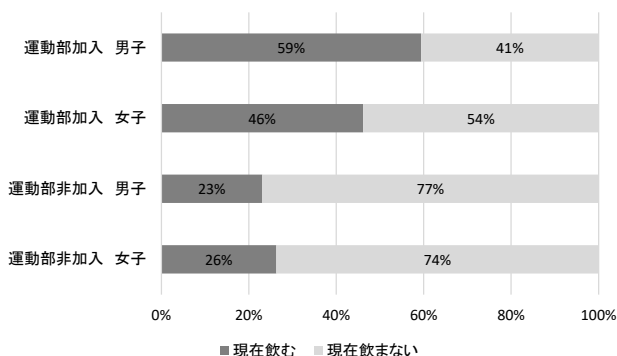


図4 現在の水道水直接飲用率

アンケートの結果より男子・女子共に中学生時運動部に加入していた人の方が水道水を直接飲んでいる割合が多いという結果になった。この結果より飲用水選

択への因果関係は確認されたが、女子の中学生時運動部に加入していて現在直接飲用の割合が低い結果は、平山ら⁸⁾の研究で示されている男性より女性の方が不安を感じやすい傾向があるということから飲料水選択に変化が生まれたのではないかと考える。また中学生時運動部に加入しておらず現在水道水を直接飲用している人は男女とも少数という結果がでた。中学生時運動部加入していた方が直接飲用している割合が高く中学生時運動部の方が水を習慣的に飲んでいることがわかる。

4. まとめ

中学生時の運動部加入率が飲料水選択に与える影響の調査結果より以下の知見が得られた。

- 1) 地域別運動部加入率と水道の直接飲用割合は相関図と相関係数より因果関係があることが示唆された。
- 2) アンケート調査の結果より中学生時運動部に加入していない人が現在水道水を直接飲用してなく、加入している人が飲む割合が高いことから、中学時代の運動部加入率と現在の水道水直接飲用に因果関係があることが示唆された。

5. 参考文献

- 1) 内閣府代診官房政府広報室, 水に関する世論調査, 平成20年
- 2) 渡邊紹裕, 地球温暖化と世界と日本の水問題, 水資源・環境研究, vol21, pp15~24, 2008
- 3) 伊藤禎彦, 平山修久, 城征司, 越後信哉, 大内由美子, 水道水に対する満足感の因果モデル構築と満足感向上策に関する考察, 水道会雑誌平成19年4月第871号
- 4) 文部科学省 HP
(www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/detail/129313_6.htm)
閲覧日 2018/1/5
- 5) 中学校体育連盟 HP
(www.njpa.sakura.ne.jp) 閲覧日 2018/1/4
- 6) 湯浅啓太, 長岡裕, 子を持つ母親を対象とした水道に関する情報及び過去の官能評価が水道の評価に与える影響の調査, 土木学会関東支部技術研究発表会概要集, 第VII部門-46/
- 7) ネットリサーチティムスドライブ 「水道水に関するアンケート」
(<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch>) 閲覧日 2018/1/4
- 8) 平山ら, 需要者特性からみた水道水質に対するリスク構造分析